

平成29年度 赤穂市学校(園)評価報告書

学校園名 赤穂市立坂越小学校

1 本年度の学校(園)経営方針

- 児童相互の学び合い、関わり合いを組織し、互いに高め合いながら学習に真剣に立ち向かう児童を育て、確かな学力の定着を図る。
- 道徳教育を基盤に、人権が尊重される授業づくり、人権尊重の視点に立った環境づくりを推進し、教師、児童の人権感覚を高める。
- キャリア教育を推進し、児童が自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現する力を全教育活動において育む。

2 本年度の学校(園)重点目標

- | | |
|------------------------|-----------------|
| ① 授業の改善、指導力の向上、指導体制の改善 | ⑦ 地域と連携した教育 |
| ② 人権教育の充実 | ⑧ 基本的生活習慣の確立 |
| ③ 組織としての学校づくり | ⑨ 体力の向上 |
| ④ 道徳性の高揚 | ⑩ 児童の安全確保の確立 |
| ⑤ 規範意識の醸成 | ⑪ 児童に向き合える時間の確保 |
| ⑥ 家庭と連携した教育 | |

総合的な学校園関係者評価

- 児童の「基本的生活習慣の育成」「地域とのつながり」等を目的とした「あいさつ運動」を来年度も進めていく。昨年度も課題の一つとしてあげていたが、地域の方に対する挨拶は良くなってきたと評価されている。さらに、地域・家庭・学校がともにその意識を高め、児童の健全育成を図りたい。
- 保・幼・小・中の連携強化の維持を図り、児童生徒の育成を推進していく。
- 毎年10月に実施されている「もちつき大会」や、12月に実施されている「児童と地域の高齢者との手紙交流」が効果があった。今後も継続したい。
- 総合的な学習や社会科、学校行事等で、地域の人材がよく活用されている。地域を思う心をさらに育てていきたい。
- 児童の安全確保に関する自己評価が十分ではない。本年度の反省をもとに、教員、児童の危機対応の意識を高め、改善を図りたい。

3 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策	学校園関係者評価		
	項目	指標				自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
授業の改善 指導力の向上 指導体制の改善	項目	学習形態、指導方法を工夫し、基礎基本の定着に努めている。	職員アンケート 保護者アンケート 学級懇談会 職員アンケート 職員研修 職員アンケート 職員研修	A	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な学力の定着に向けて、朝の学習を充実させたり、校内研修を充実させたりする必要がある。 児童の学習意欲を高めたり、視覚的に学習を進めたりする。 電子教育機器の活用に関する研修を進めていく。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 毎日こつこつ取り組むことの必要性を今後とも呼びかける必要がある。 家庭学習の充実を図り、学習する習慣を身に付けさせる。 朝の学習の時間や家庭学習を充実させ、基礎・基本の充実を図っていく。 個別に対応する時間を確保する。
	項目	関わり合い、学び合いのある授業づくりを目指し、自らの専門性を高めるため研鑽に努めている。						
	項目	主体的・対話的で深い学びをめざし、全児童が主体的に参加できる授業づくりに努めている。						
人権教育の充実	項目	児童の人権を保障している。	職員アンケート 児童アンケート 職員アンケート 職員研修	A	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の児童を大切にしたい教育活動が行われるよう全教職員が共通理解をして取り組む必要がある。 一人一人の児童が自己有用感を感じることが出来る学級づくり、授業づくりを目指す。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業、児童との会話等から児童の小さな変化も見逃さず、児童に寄り添って教育活動を行っていく。 「一人一人の児童を大切にするために」「いじめを見抜くために」、教師自身の人権感覚を常に磨き続ける必要がある。 児童アンケートを定期的に行い、迅速適切な対応に努める。
	項目	人権が尊重される仲間づくり、学び合いのある授業づくりに努めている。						
	項目	様々な人権問題に関心をもち、自らの人権感覚を高めるよう努めている。						
組織としての学校づくり	項目	必要な報告・連絡・相談を適切に行い、校務の処理を円滑に行っている。	職員アンケート 職員研修 職員アンケート 職員研修	A	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解を図った上で組織として教育活動を行う 教員同士で相談し合える雰囲気継続できるよう取り組む。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの教職員の資質を向上させるための研修が必要である。 若年層の教員を経験のある教員が支えながら、指導していく体制作りが必要である。
	項目	学校教育目標の具現化めざし、他の職員と協働して組織的に教育活動を行っている。						
	項目	互いに信頼し合い、協力し合える職場づくりに努めている。						
道徳性の高揚	項目	道徳の教材や授業づくりの研究に努めている。	職員アンケート 保護者アンケート 職員アンケート 保護者アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の教科科に向けて、年間指導計画の見直し、道徳の授業のスタンダード作成等を行い、授業を充実させたい。 校内研修会を充実させ、すべての教員が充実した道徳の授業を実施できるようにしたい。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 本年度取り組んだ内容をさらに充実させるために授業研究や研修会を実施する。 道徳の年間指導計画の見直し・作成を行い、児童の生活に根づいた道徳の授業を実施する。
	項目	様々な体験活動を通して、心豊かな人づくりに努めている。						
	項目	日々の生活の中で、道徳的価値や礼儀の指導等を通して児童の道徳性を高めている。						

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

観 点	評 価 項 目 (学校園・教師の取組) 評 価 指 標 (児童・生徒・園児の状態・行動)	評価資料	達成状況	改善の方策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
規範意識の醸成	項目 指標	児童理解に基づき、生活指導の充実に努めている。 生徒指導委員会等で情報交流が行われている。	A	・生徒指導委員会で細かな情報交換を図るとともに、特別支援教育校内委員会とも連携した指導を行う必要がある。	◎	◎	・十分な児童理解をするための研修会を実施し、児童の心を育てる生徒指導が行えるようにしたい。
	項目 指標	校内・校外のきまりを明確にし、徹底して指導を行っている。 職員間で共通理解した対応ができています。					
家庭と連携した教育	項目 指標	家庭への情報発信に努めている。 オープンスクール、各種会合、各種通信、学校ホームページ等による情報発信がなされている。	A	・学校ホームページを活用して、学校の取組を地域・保護者へ定期的に発信する。	◎	◎	・学校の教育活動を視覚的に紹介するために、学校HPを定期的に更新していく。
	項目 指標	家庭と連携し、教育活動を行っている。 オープンスクール、懇談等を通して連携した取り組みを行っている。					
地域と連携した教育	項目 指標	地域への情報発信に努めている。 オープンスクール、各種会合、各種通信、学校ホームページ等による情報発信がなされている。	B	・地域人材や地域の海や川、里山などを効果的に活用するために学習内容を計画し、実施する必要がある。	◎	◎	・郷土への思いを高めるために、総合的な学習の時間等を活用して、地域と学校の交流機会を確保していく。
	項目 指標	地域と連携し、教育活動を行っている。 オープンスクール等地域の方が参加しやすい企画を考えている。					
	項目 指標	地域の自然、文化、歴史、人、もの、ことと関わる体験や学びを大切にしている。 地域の学習を授業に取り入れている。					
基本的な生活習慣の確立	項目 指標	児童の学習習慣定着のため、工夫して教育活動を行っている。 学習状況調査等を行うなど実態把握に努めている。	A	・アンケート結果を考察し、対応を講じる必要がある。また、効果的な指導を行うために、保護者や家庭と密接に関わり、信頼される取組を行う必要がある。	◎	◎	・児童の学習習慣定着のために、基本的な生活習慣の確立は必要不可欠である。学級懇談会・PTAの会合、授業参観等において、啓発を図り保護者の協力を得る。
	項目 指標	児童一人一人の生活環境とその課題を把握し、改善に努めている。 一人一人の生活環境の背景を理解している。					
	項目 指標	「早寝・早起き・朝ごはん運動」の推進に努めている。 「早寝・早起き・朝ごはん運動」のアンケートを実施し、実態を把握している。					
体力の向上	項目 指標	体育の学習を通して、児童の体力の向上に努めている。 体力テストの結果を考察し授業に取り入れている。	A	・児童の体力を新体力テストや体育のあゆみ等で把握し、体力の向上に何が必要かを考え取り組んでいく必要がある。 ・縦割り班活動（スマイル班）を活性化させたり、運動委員会の活動を活発にさせたりし、児童の運動に対する意欲を高める。	◎	◎	・児童の体力を向上させるために、しっかりと体を動かして遊ぶことが必要である。そのために、縦割り班や運動委員会を活用し「遊ぶ」楽しさを体験させ自発的な遊びにつなげたい。
	項目 指標	外遊びの奨励を通して、児童の体力の向上に努めている。 児童が運動に対して主体的に関わっていると同時に、休み時間によく遊んでいる。					
児童の安全確保の確立	項目 指標	児童の危険回避能力向上のため、工夫して教育活動を行っている。 避難訓練に主体的に関わっていると同時に、防災意識が高まっている。	A	・危機管理マニュアルを見直し、改善内容を共通理解することで児童の安全確保を図りたい。 ・様々な場面を想定した避難訓練を計画・実施し、命を守る行動ができる児童の育成を目指す。	◎	◎	・教師自身の危機管理意識を高めることが必要である。「〇〇から出火」「〇〇地震で津波到達」等、明確な場面設定をすることによって、具体的な避難行動の方法を考え、災害時に備えたい。 ・教師自身が学校の状況（遊具・設備・備品）を詳しく知らなければならない。定期的に安全点検を行い、不備や危険箇所が見つければ、速やかに対応したい。
	項目 指標	学校の安全を確保するための役割を自覚し、その強化に努めている。 児童が安全に学校生活を送ることができている。					
	項目 指標	施設設備の整備や安全点検、危険箇所の営繕補強に努めている。 安全点検の充実に、危機管理マニュアルの徹底が図られている。					
児童に向き合える時間の確保	項目 指標	校務の精選、教育課程の工夫などによって、児童に向き合える時間を確保するよう努めている。 児童と接する時間が増えている。	B	・業務を計画的に行ったり、電子化を図ったりして、児童と向き合う時間を確保したい。	◎	◎	・職員一人一人が先を見通し計画的に業務をこなせるよう意識付を図りたい。

自己評価における特記事項

- ・今年度も、自己評価については学期ごとに実施しているが、道徳教育の推進に関しては、組織として研修に取り組んできた結果、評価が上昇したと思われる。
- ・「学校の組織力の向上」という観点で自己評価がなされ高い評価を得た。今後も、「組織で取り組む」という意識を高めながら教育活動に取り組んでいきたい。
- ・学年に応じた防災教育を行ったり、年間を通して様々な形の避難訓練を行ったりすることにより、児童の防災意識（自助・共助）の意識が高まった。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

- ・見通しをもち計画的に業務を遂行することで、児童と向き合う時間を計画的に確保できるようにしたい。
- ・退勤時刻の目標を決めて業務を行ったり、職員同士互いに声をかけ合ったりすることで「定時退勤」についての意識を高めたい。そして、心身ともにリフレッシュし、教師自身の健康増進を図りたい。

